

URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.

No.01
2017.10

contents

- 2 巻頭言
- 3 ゼミ生の活動
- 4・5 由利本荘石脇通りのイベント
- 6 B4建築学研修の成果
- 7 研究一覧、新任の先生紹介、3年生紹介
- 8 OB・OG紹介、写真コンテスト



「名護市庁舎」 撮影：田口真也



秋田県立大学 建築環境システム学科 都市・建築計画学研究グループ 都市・地域計画ゼミ

巻頭言

より近く、より遅く、より寛容に

今回、専門外ではあるが、『閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済』水野和夫著に触発され、考えてみた。

●閉じる？

まず、専門の話との関連。

都市計画の母と言われ、住宅地開発や震災復興の際に多く使われてきたものに土地区画整理がある。宅地需要の増大が前提となって制度設計された事業手法である。しかし、現在はマイナスの需要、つまり空き地・空き家の発生が常態化し、その前提が成立しない。結局、こうした事業は上手く機能しないし、マイナス需要下における将来都市像も自ずと異なってくる。市街地では宅地から農地・緑地に還っていく現象が発生しており、かつて期待をこめて描いた拡大志向の都市像はコンパクト志向の都市像へと【閉じ】つつある。但し、悲観的な都市像ではない。Green&Smart Wellnessなコンパクトシティ像へ、である。

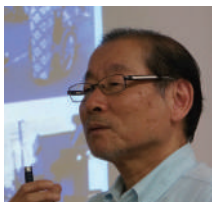
●逆説？

さて、著者の水野は、資本主義は「中心」と「周辺」から構成され、「周辺」を広げるにより「中心」が利潤を得て資本の自己増殖を推進していくシステム、と説明する。そして、グローバリゼーションの徹底により地理的空間の市場拡大は限界にきており、新たに創設した電子・金融空間もいずれ限界に達するだろうと指摘している。その証左がゼロ金利であり、投資先がないという資本主義における異常事態の発生である。

確かに外食チェーンは閉店時間を早め、宅配便業界は時間指定配達を縮小する方向で見直し、コンビニ店は、1,000世帯あたり1店舗と飽和状態である。「成長を追い求めれば追い求めるほど、民間企業は巨大な損失を被り国家は秩序を失ってしまう。」という【逆説】の言葉には考えさせられる。

●ポスト近代システムの展望

では、こうした状況下で、如何なる展望があるのか？世界的には英国のEU離脱や米国トランプ政権の誕生、我が国ではエネルギー自給やスローフード、若者の地方への移住の動きといった「閉じ」と「逆説」の進行を踏まえながら、水野は、「より遠く、より早く、より合理的に」に集約される近代の理念が、ポスト近代では「より近く、より遅く、より寛容に」にとって変わられることで展望を見出そうとしている。もちろん、一気に変わらないのだが。この本を読みつつ、都市計画も、行きつ戻りつはありつつ、最終的には「より身近で、より段階を踏まえ、より多様性を許容できる」像とシステムを備えたものになっていくだろうと予感している。



山口 邦雄(やまぐち くにお)
都市・建築計画学研究グループ

授業ってなんでしょう

先日、1日半をかけて大学のFD企画を参加しました。今回のテーマは「授業運営」でした。授業というのは新しい知識を学ぶ場であることが通常に認識されますが、今年の4月から大学の教員になった私はFD企画で授業デザインと成績評価シートの作成を実際に作ってみたところ、初めて教える立場で「授業ってなんでしょう」という素朴な疑問が頭に浮かびました。そして、小学生6年間、中学生3年間、高校生3年間、大学生4年間、それに日本の大学院在学する6年間。長い学生時代の中でどんな授業が好きだったのかを自問した。

興味のある授業でしょうか。アクティブな先生が教えてくれる授業でしょうか。新しい知識がびっちり並んでいる授業でしょうか。確かに小さい頃、真面目だった私は学習負担が少し大きめで授業の後に頭が少し疲れた感じが好きでした。では、大学3年生の時に会ってからずっと大好きで現在の研究分野ともなっている「民家と集落」の授業はきっと内容パンパンだったであろうと思われませんか。残念ながらそうではありませんでした。

十数年前の中国の建築学分野では、民家と集落への関心があまり高くなかったため、専門とする先生も少ない状況でした。最初に授業で民家のことを教えてくれた先生は建築計画を専門とする先生で、授業内容はほとんど旅行先の写真を見せながら自分の感想を述べていただけでした。民家についての説明は風土や伝統的な技術からではなく、ほとんど設計の視点からでしたが、授業の最後に必ず「以上は僕の観点なので、君らは何か疑問があればぜひ図書館で調べてみてください」と言いました。当時の私は授業内容が面白いと思っていましたが、やはり内容不十分と感じていたため、いつも不満を持って授業後に図書館に行っていました。その時から自分がずっと民家と集落に興味を持っていました。

自分が教えている内容の面白さと教える熱意に同感してくれる学生がいらっしゃるなら、授業の意義も存在する気がしますが、「授業ってなんでしょう」とについてはしばらくの間は答えられません。答えられるまでまた十数年かかるかもしれませんがこれから授業を持ちながら考えていこうと思っています。



李 雪(り せつ)
都市・建築計画学研究グループ

研究活動

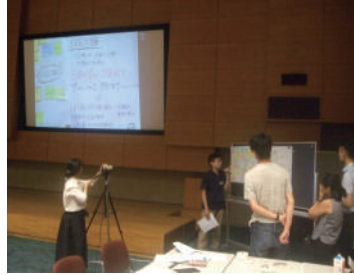
URPS へ変更しました

★前回のN.L.でご案内したように、研究室の統合再編によりニューズレターのタイトルは「UAEL」から「URPS」へ変更となりました。お約束どおり、新たな体制でお届けします。

グローバル化人材育成プログラム

M1 小島 寛之

8月24日・25日に、日本建築学会主催の「グローバル化人材育成プログラム『世界で建築をつくるぞ！ーグローバルな建築デザイン・マネジメント・エンジニアリング分野への入門』」に参加してきました。プログラムは、建築家の隈研吾先生など5名が講演し、講師が出題する課題をもとにワークショップ、成果発表、講評を行うもので全国から約60名の学生が参加しました。また、ワークショップでは学生は8班に分かれ、各班に海外実務経験を持つメンターが2名つき、指導をいただきました。



発表の様子



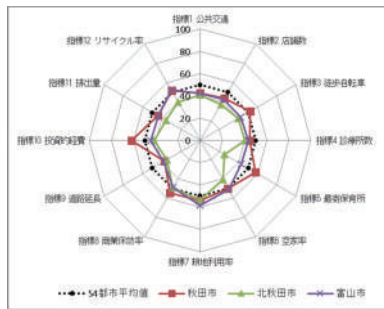
ワークショップチーム

アドバンスド自主研究

B3 中嶋 洸太

「数値データを用いた都市間比較によるコンパクトシティ性の考察」というテーマで研究を行っています。ゼミの先行研究で蓄積されたデータをもとに、私の地理的理解のある秋田市と北秋田市、コンパクトシティの先進都市として高い評価を受けている富山市の3都市のコンパクトシティ性の評価を行い、現段階でのコンパクトシティ性に対する都市計画方針の妥当性と今後の展望等について考察することを目的としています。

また、対象都市の現地調査を行いました。中でも小島さんと共に8月26日～28日にかけて行った富山市調査は、数値だけでは知ることが出来ませんでした。



対象の分析結果



JR 富山駅

日本建築学会東北支部 in 由利本荘

M2 田口 真也

6月17日から18日の2日間に渡って、由利本荘市文化交流会館カダレにて日本建築学会東北支部研究発表会が開かれました。本学がおかれる由利本荘市で行われた今回は本学から多くの先生方、学生が参加し、都市・地域計画ゼミからは荒生、田口、小島の3人が発表しました。研究における視野が広がるとともに、プレゼンテーションを再考する良い機会となりました。

荒生竜也: 栃木市嘉右衛門町周辺地区における歴史的景観形成に係る取組みの特徴に関する研究
一街並み環境整備事業と伝統的建造物群保存事業に取組む地区の類型の特徴と比較して

田口真也: 重要文化的景観区域における歴史的風致維持向上計画の運用実態に関する考察
一重複区域における行為規制と補助事業に着目して



発表の様子

日本建築学会全国大会 in 広島

M1 小島 寛之

8月31日から9月3日に開催された日本建築学会全国大会に参加してきました。研究発表は、一般よりも発表・質疑時間が長く設定されているオーガナイズドセッション（都市計画部門の「都市再生の実践と集約型構造再編に向けた課題と方策」）で行い、活発な議論ができました。また、研究協議会では、コンパクトシティ施策の実施後の都市の空間像について考えさせられました。

小島寛之: コンパクトシティ指標を用いた都市内の拠点数に関する研究
一計画上の拠点と現状の拠点との峻別を通して



発表の様子

表紙写真 「名護市庁舎」

象設計集団によって手がけられた沖縄県名護市庁舎は庁舎建築とは思えない意匠である一方で屋根は風通しがよく、日差しも気持ちよく遮られ、環境的な配慮がいたる所に施されています。竣工から約40年経過し、建替が考えられているため、沖縄県の世界遺産のひとつに登録されることを願っています。(田口 真也)

第3回となりました！

浴衣で歩く石脇夕涼み

はじめに

このイベントは、石脇通りを一時的に歩行者天国にし、浴衣を着て歩くことで健康増進に繋ぎ且つ“たんころりん”をはじめとした景観演出を行うことで景観に対する意識の醸成を図ることを目的としたイベントです。

開催初年度の来場者数は2,000人ほどでしたが、年々増加し、第3回目の開催となる今年は3,000人以上の人々が石脇通りを楽しんでいました。



祭り当日の石脇通り

イベントのポスター

←表面
↓裏面 (マップ)



石脇消防団による射的、秋田市の割烹かめ清や由利本荘市のイタリア風レストランのリストランテ・クロがありました。



射的 (石脇消防団)



金魚すくい (地元企業)



ゼミ展示



ゼミの集合写真



前夜祭

今年から、イベント前日から準備や“たんころりん”の点灯・保管依頼を行うための“前夜祭”が開催されました。実行委員会の方々とゼミの学生で家々にたんころりんの点灯・保管依頼をしてまわりました。

この前夜祭は、車が行き交う石脇通りに“たんころりん”が並んでいる姿を見せることで、イベントへの期待を高めることが目的ですが、何分初めてのことであり、“たんころりん”を保管依頼で留まる結果となりました。

しかしながら、5基ほど率先して点灯してくれました。



前日の準備風景

新しい試み



イベントの初回と2回目の歴史的街並みの残る石脇通りの「灯り」による空間演出は、主に実行委員会の手によって実施されてきました。これまでも昔から伝わる家々の行灯や暖簾の掲出といった地域の協力もありましたが、第3回目となる今回、嬉しいことに新しいバージョンの「灯り」が登場しました。

ひとつは、沿道住民がペットボトルに直接文様を描いて家の前に並べたものです。もうひとつは、女子中学生3人が手提げ提灯をイベントに持ち込んだことです。傍からみれば大したことはないかもしれませんが、初回の立ち上げから関わっている私たちにとっては、大変嬉しいものでした。こうした自発的な行為が少しずつ広がっていけば、確実に「参加者で創りあげる石脇イベント」に発展していくことでしょう。

大学のサークル「秋田学生まちづくり団体」も、流しうどんの企画を実施してくれました。



ペットボトルの活用



手提げ提灯

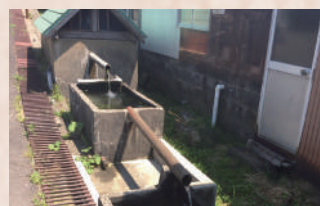
改修・整備進捗



田屋（改修前）



田屋（改修後）



公德泉（改修前）



公德泉（改修後）

3年前に旧都市アメ研にて、改修・整備像の提案を行った町屋の改修が、昨年実際に行われました。また、湧水施設の整備も公德泉組合の手によって進み、石脇通りの改修・整備に進捗が見られ始めました。

亀田城佐藤八十八美術館から

当ゼミでは、本部会場にて「石脇夏期集中研究の成果」として石脇通りの整備構想パネルを毎回展示しています。

今回は、展示を見にこられた亀田城佐藤八十八美術館の主席参事の方からお手紙を頂きました。日本展示学会研究大会において、京都山科地域の駅前周辺活性化事業の一環である「陶灯路事業」の報告があったという紹介です。この事業は地域と京都橘大学のサテライト・ラボラトリーが共同して取り組んでいるということで、さっそくHPでチェックした次第です。



京都橘大学 HP より

実行委員からのひとこと

石脇浴衣祭り実行委員会のなかでも管理役である上町会長の石崎秀雄さんに取材させて頂きました。石崎さんはこれまで3度の祭りを通して「地域住民は自ら暖簾をだしてくれるようになった。大学生は毎年、新しいものを提案してくれる。祭りの賛同者が各々でやれることをやっており、発展というより進化している。」と評価していました。また、これからの祭りについて「課題は次から次へと必ず出てくるが、進化していくことを期待しながら試行錯誤の中でやっていくだけ。来客する方は正面的な判断で構わないが、裏方はよりよくするために仕掛けをとどめることなく、パフォーマンスを届けていかなければならない。」と抱負を語ってくださりました。

(上町会長：石崎 秀雄さん)



つくばエクスプレスの開通に伴うつくば駅周辺の土地利用と人口数の変化に関する考察

B4 桂 大志

2005年8月に開通したつくばエクスプレス(以下、TX)開通前後での人口と土地利用変化をみるため、終点駅で茨城県つくば市にあるつくば駅周辺の人口と土地利用変化を1995, 2005, 2015年の国勢調査とゼンリン地図帳から把握し、その関係の考察を行った。

以下が考察とまとめである。

- ①TX開通後、駅周辺では駐車場の整備も進んだことが分かった。
- ②業務・商業施設の数、TX開通前から開通年にかけて増加しているが、その後10年は減少した。
- ③戸建住宅・業務商業施設が増加している町丁字では、それに伴って人口も増加していた。

今後は新市街地が形成しつつある、同市の研究学園駅と開発途上である万博記念公園駅の周辺についての調査を同様に言い、各駅の人口と土地利用の関係を分析・考察する。

つくば駅周辺の人口数

	1995年	2005年	2015年
春日1丁目	1,182	1,306 (10.5%)	984 (-24.7%)
吾妻1丁目	1,232	1,517 (23.1%)	1,209 (-20.3%)
吾妻2丁目	2,715	2,415 (-11.0%)	1,243 (-48.5%)
吾妻3丁目	1,493	2,178 (45.9%)	1,750 (-19.7%)
吾妻4丁目	1,778	1,757 (-1.2%)	1,984 (12.9%)
東新井	767	1,437 (87.4%)	1,855 (29.1%)
竹園1丁目	914	845 (-7.5%)	2,747 (225.1%)
竹園2丁目	1,050	1,250 (8.9%)	1,209 (-3.4%)
総数	11,231	12,707 (13.1%)	12,981 (2.1%)

若者参入が朝市にもたらす影響の基礎的調査・考察 - 秋田県のごじょうめ朝市 plus+に着目して -

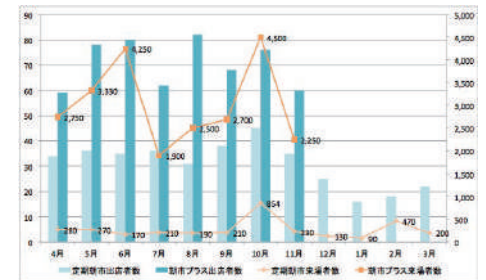
B4 戸嶋 大輔

本研修では、若者参入による朝市の存続・発展の検討に向け、若者の参入が見られる朝市を調査し、若者参入が朝市にもたらす影響の基礎的考察を目的とした。

秋田県内の朝市29件のうち、若者の出店が見られる朝市はごじょうめ朝市 plus+(以下、朝市プラス)の1件のみであった。そこで、本研修の対象は朝市プラスとその母体である五城目朝市(以下、定期朝市)とし、調査を進めた。本研修より、

- ①若者参入が見られる朝市は秋田県内で1件のみ、
- ②移住者と町民の提案から朝市プラスは誕生し、出店者数、来場者数ともに定期朝市を大きく上回る、
- ③若者出店者は会社員や主婦など様々で、主に日用雑貨や体験型の商品を提供している、
- ④出店動機としては、趣味や交流が多数を占める、等を把握した。

また、若者参入が朝市にもたらす影響として、①販売品目の多様化②来場者数の増加③イベントや広報活動の充実、等が考えられると結論づけた。



平均出店者数と来場者数推移 (2016年)

公営住宅の団地統廃合における物的変化と従前居住世帯の転居行動の基礎的調査・考察 - 東北6県を対象として -

B4 西田 昂平

東北6県における公営住宅の団地統廃合の事例を調査し概要を把握するとともに、特徴ある事例を抽出する。その後、最も大規模な団地統廃合において物的変化と従前居住世帯の動向を詳細分析することで、今後の公営住宅の団地統廃合に関する基礎的考察を試みる。

以下に、本研修より得られた調査結果と考察を記す。

- ①東北6県の公営住宅の団地統廃合の事例
 - ・公営住宅の団地統廃合は東北6県すべてで確認でき、近年になって増えてきたものである。
 - ・管理戸数が少なくなることにより、合理的な運営管理が期待される。
- ②新屋住宅建替え事業
 - ・建物が良質になったことに加え、共有地の整備により、団地内環境が向上した。
 - ・現地建替えの際、転居を2回行わなければならない世帯は転居率が低下する。
 - ・転居距離が遠くなるほど、居住世帯の転居距離が下がる。



事業前の住棟配置



事業後の住棟配置

◆ 都市・建築計画学研究グループの他の研修一覧 ◆

指導教員：苅谷 哲朗 教授

- 葛西琴乃 広域連携に取り組む地域施設の実態と課題
- 土井美春 災害時における応急借り上げ住宅制度の整備に関する現状調査
- 野原あかり 秋田県における民間企業の廃校利用に関する実態調査

指導教員：込山 敦司 准教授

- 小川諒介 ガラスに隔てられた空間に置かれた物体の色彩が認知に与える影響
- 佐々木椿 秋田駅コンコースの木質改修による待合室の印象に関する研究
- 丸藻春菜 湧き水のある親水空間の空間構成に関する研究
- 矢口公大 開放的な敷地の住宅における眺望と開口部デザインの関係

指導教員：浅野 耕一 准教授

- 大森彩世 郊外住宅団地のコミュニティの継続性に対する一考察
- 小倉理也 住宅の環境性能評価ツールの連動を目的とした熱収支計算プログラムの構成に関する基礎的な学習と検討
- 斉藤鉄郎 子育て支援政策の成果との比較による「子どもにやさしいまち」指標に対する一考察

* 新任の先生紹介 *

今年から特任助教として、本学に着任した尹 荘植 (ゆん じゃんしく) と申します。私は、2002年に横浜国立大学建設学科に入学、2008年に同大学大学院 (Y-GSA) を修了した後、兵役のために韓国の建築設計事務所で3年間働きました。その後、建築単体だけではなく、より都市的な視点から専門性を高めたいと思い、同大学大学院の都市計画研究室で博士学位を取得しました。博士論文は日本の地区まちづくりの経験を踏まえた新しい都市計画制度の方向に関する研究であり、引き続き地区レベルにおける地域主体の計画・マネジメントについて研究を進めております。

これまで、韓国の水原市 (人口 120 万人) と横浜市 (人口 373 万人) のような大都市で住み人口約 8 万の由利本荘市での生活にはギャップを感じます。しかし、それを逆に、人口減少の最前線で研究できる機会と捉えて、楽しみながら研究に取り組んでおります。今後とも宜しく願い申し上げます。

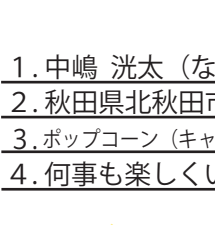
尹 荘植 (ゆん じゃんしく)
都市・建築計画学研究グループ



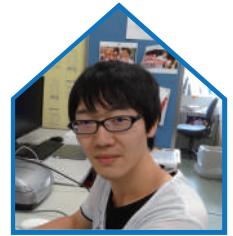
1. 高橋 瑞 (たかはし みずき)
2. 岩手県盛岡市
3. 豆腐, グミ, ピザ
4. よく食べ、よく笑い、よく学びます。



1. 千葉 春樹 (ちば はるき)
2. 宮城県宮城郡七ヶ浜町
3. 焼き肉, キムチ, すき焼き
4. どっかの焼肉屋の店員だよ〜ん。



1. 中嶋 洸太 (なかじま こうた)
2. 秋田県北秋田市
3. ポップコーン (キャラメル味), ガム (ミント味)
4. 何事も楽しくいきますよ。



1. 八島 咲子 (やしま さきこ)
2. 宮城県大崎市
3. 牛乳プリン, ラーメン
4. 三度の飯より飯が好き。

< OB introduction corner >



現場の様子

皆様、こんにちは。7期生の佐藤昌宏と申します。

今回は貴重な機会を頂きましたので、学生の皆様に社会人になって感じたことを伝えられればと思います。

私は現在、建設会社にて現場の施工管理をしています。主な仕事の内容としては、現場の工程・予算・安全・品質・環境を管理するために、工事計画図や工程表等を製作し、職人の方が建築物を問題なく造っていただけるようにしています。8年目の中堅社員として、今では自分の書いた工程が現場の進捗に直結し、自分の計画したものが現実となるため、やりがいを感じ、非常に楽しく仕事をさせて頂いています。

社会人になり感じることは、「自分でやりきる意志を持っているかどうか」が重要だということです。ゲーテの言葉に「自分一人で石を持ち上げる気がなかったら、二人でも持ち上げられない」という言葉がありますが、本当にその通りで、この意志がある人は、自分でまずはやろうとするので最初のうちは失敗もしますが、そこで多くの事を学び成長します。また、周りをフォローしないと仕事は成立しないことが多いので、関連する仕事も見るようになり視野が広がります。さらには、周りをフォローしていると、周りが自分のことをフォローしてくれる環境ができ、チームワークが生まれます。

特に私の仕事では一つの現場が終わると次の現場で新しいメンバーに入れ替わるのでその空気の違いを肌で感じます。今は組織をどのように作るかを考える立場になってきているので、自分がどのように周りに対してその働きかけをしていけるか実践している段階です。

大学では、研究や就職活動など自分が主体的にやりきれないといけないハードルが多くありますが、それをやりきることに集中してみてください。そうすれば、社会人になっても、いくらでも成長し続けることができ、周りの環境も変えられると思います。

最後に私事ではありますが、おとしに結婚し、去年子供を授かり、仕事も楽しく幸せな生活を送らせて頂いています。ただ、自分だけでなく周りにも幸せな人が多いように感じます。自分が幸せになるためには、まずは周りの人をどう幸せにできるかを考えてみてください。そうすればいつの間にか自分も幸せになっていると思います。皆様の今後のご活躍を期待しています。

第7期卒業生
(株)竹中工務店 東京本店
佐藤 昌宏



編集後記

今回のNL18号の作成に際し、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。また、先生方や先輩方にも校閲やご指導を頂き、大変お世話になりました。

さて、今回のNL18号からは、山口先生からご案内があった通り、表題を「UAEL」から「URPS」へと変更いたしました。表題は変わりましたが、都市・地域計画ゼミが旧都市アミニティ工学研究室の活動を引き継ぐ形で、以前と同様、建築学科や計画学講座の近況を報告し、皆様に愛されるNLの編集に励んでいきます。

これからも、NLのご愛読のほど、よろしく願っています。

<2017.10.13 NL編集部> 桂 大志 西田 昂平 田口 真也 山口 邦雄

写真コンテスト 佳作作品

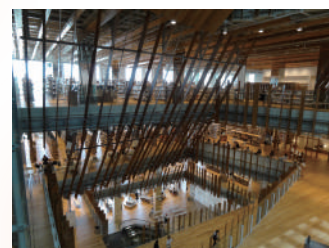
本誌表紙を飾る写真は都市・地域計画ゼミ内で「写真コンテスト」を開催して決定しています。今回は選ばれなかった上位4点を以下に掲載させていただきます。

「金沢中央味食街」
石川県金沢市

撮影：田口真也(M2)



金沢市片町の一角にある金沢中央味食街は昭和風情を残す一層屋台が立ち並び、高層建物が密集する繁華街のなかで異彩を放っています。



「TOYAMAキラリ」
富山県富山市

撮影：小島寛之(M1)

2015年に開館した、複合施設TOYAMAキラリ。隈研吾先生による設計で、県産材による羽板を使った解放的な吹き抜け構造が魅力です。

「尾道本通り商店街」
広島県尾道市

撮影：高橋瑞(B3)



広島県の尾道本通り商店街です。おしゃれなお店から、懐かしいお店まで、約400店舗が軒を連ねます。歩くだけで楽しい、魅力的な商店街です。



「白川郷」
岐阜県大野郡白川村

撮影：八島咲子(B3)

白川郷にある合掌造り集落を訪れました。急斜面の屋根をもつ家屋が集まり、連続的な風景を織りなしています。

OB・OGの皆さんへ

ゼミ生からのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力をお願いします。連絡は山口まで。



URPS 編集部
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎：0184-27-2053

✉：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄